



楓の誉

R3.5.28(第3号)

文責：瀧上 佳宏

コロナ禍の今、コロナ禍の後

すでにお知らせしておりますように、県下の新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、本校の体育大会は、十月三日(日)に延期することになりました(現時点)。せっかく生徒たちのモチベーションが高まりつつあっただけに残念ですが、練習の凍結日に、私(校長)から生徒たちに「これまでの練習の成果をしっかり記録と記憶に残し、九月には今日の段階から練習が再開できるようにしてほしい。」とお願いをしたところです。

ところで現在は、感染症が収束していない「ウィズコロナ」の段階と言わざるを得ません。その中で、平常時と同様の教育内容がいかに生徒たちに保障していくかは、どの学校においても喫緊の課題となっています。万全の対策を取りつつも、いつ陽性者が出ておかしくない状況において、切り札となるのは、やはり一人一台に貸与されたタブレットPC(以下「PC」)だと思っています。家庭にWi・Fi環境があれば、同時双方向型のオンライン授業も技術的に可能となりました。

文部科学省も、感染症が収束した「ポストコロナ」段階では、教師が対面指導と家庭や地域社会と連携したオンライン教育を使いこなし、ハイブリッド化したかたちで協働的な学びを展開する姿を描いています。

すでに各教科の対面授業では、PCを積極的に活用している場面が数多く見られます。しかし、それに満足せず、危機感に迫られるコロナ禍の今だからこそ、家庭へのPC持ち帰りを積極的に進め、コロナ禍の後にも、多様なかたちで、オンライン教育が実現できる体制を構築していきたいと思っています。

幸い本校にはICTに堪能な井上教務主任がおり、(株)クラウドI・Aから派遣された坂東 ICT支援員と協力して、他校に先行してPC活用を進める準備をしています。

お子様がPCを持ち帰った際には、ご家庭でもPCを活用した学習が可能となりますよう、保護者の皆様のご協力をお願いします。



夢と誇りを持ち 自分らしく

主体的に行動できる生徒の育成

少しご報告が遅くなりましたが、今年度の合志楓の森中学校の学校教育目標を、標記のとおりに定めました。

現代社会は、科学技術の進歩のスピードが、私たちの予想をはるかに超え、「ソサイアティ5・0」と呼ばれる社会構造そのものが大きく変化する時代を迎えようとしています。「言われたことがその通りにできる」、「正解を求め」などの能力は、AIやロボットがしてくれてほしい。このような変化の激しい世の中では、今まで以上に、自分で考え、自分で判断し、自分で表現する、すなわち「主体的に行動

できる」力が必要となります。

しかし、このような時代にあっても、生徒たちには大きな「夢」と自分自身への「誇り」を持ち続けてほしいと願っています。そして、人権教育と特別支援教育の視点は、今後とも変わることなく根底に据えるべき価値観だと考え、「自分らしく」という文言を加えました。

この学校教育目標を具現化するための学校経営方針や重点目標(努力目標・実践事項)等は、学校HPの「本校の教育」に掲載しておりますので、お目通しいただいたら幸いです。

「ハンセン病問題」に関する小中合同研修

十九日(水)、「ハンセン病問題」に関する小中教職員合同研修を行いました。

講師にお招きした菊池恵楓園園長で医学博士の箕田 誠司 先生の講話では、

◎「ハンセン病」に関する医学的な正しい知識
◎元患者やその家族が差別や偏見を受けてきた歴史や背景

◎「菊池医療刑務支所」が設置された理由
◎治療法の確立後にも差別を助長する法律が放置されてきた経緯

等について、プレゼンテーションを用い、分かりやすく説明していただきました。

「ハンセン病問題」の啓発は私の使命」と語られた箕田園長の熱い思いも伝わってきて、私たち教職員も人権教育をすべての教育活動の根幹に据え、本気で取り組んでいかなくてはと強く感じたところでした。

